

# 南知多 溜め池と支線管理

共同体の秩序を守る重い役割を担った〈かかり〉さん。

愛知用水の通水で役目と担当者は変わりましたが、

〈かかり〉さんの気概は次の世代に受け継がれました。

今の課題は、昔を知らない世代にその思いをどうやって引き継いでいくかです。



**澤田 廣三**

さわだ ひろぞう

愛知用水土地改良区理事長  
元・国営農地開発事業理事長  
農用地利用組合元組合長

1936年、愛知県知多郡南知多町生まれ。

## 水は手と肩が頼り

私は1936年(昭和11)生まれ

で、一口に言うとうと、勉強より水の手当てのほうが重要な時代に育った。小学校の高学年になれば、7月の稲が育つ時期には、朝のご飯前に水汲みをする。私は川と言っていました。私らは川と言っていました。まあ溝のような流れをせき止めて田んぼに汲み上げないと、朝ご飯もいただけませんし、学校にも行かれない。

ほかのことでは、何の不満もありませんでしたが、とにかく水が欲しいなあ、と思いました。風呂の水も生活するにも、田んぼだつて、水は全部手で汲んで運びました。井戸っていうのもなができて、井戸がポンプになって、愛知用水ができた。それまではもう、手と肩が頼りだった。

これらの水はね、濁り水で、そんな水を飲んでた。それでも1

年に1、2回検査をして、許可が出た。今だったらおそろしく許可は出ません。飲み水も田んぼに使う水も一緒。川の水です。

いくらなんでもそれでは、というところで、いつの時代か忘れてしまったけれど、この家の下に簡易水道ができました。大きな濾過装置をつくって。この集落の世帯は今112戸ありますが、当時は60戸ぐらいだった。その各戸に自然流下で送った、というのが水道のはじめだね。

新しい水でも濁っていて、全然見えないんですよ。だから愛知用水の水で初めて風呂に入ったときに、透き通って自分の身体が見えるから、恥ずかしかったなあ。それまでは濁っていて見えないんだから。私が言ったその話がテレビで大々的に放映されちゃって。それも恥ずかしかった。

いくら田んぼや畑があつたって、水がなければ何にもできませんか

らね。うちは、みかん専業農家でした。傾斜地に苗木を植えてね。1970年(昭和40年代後半)ごろまでは、黄色いダイヤと言われるぐらい、みかんは貴重品だったんですよ。だから今より気楽な生活を送らせていただいていたんです。

今でこそ、平坦地に行くともかんの甘味を出すためにシートで覆って水分調整していますが、その当時はそれどころではない。今時分になって花が咲いても夏がきて水がないとしぼんで枯れてしまう。実がつかないんです。水を掛けたくても、水源がないんだもの。ポンプがないときには、動力は牛だ

け。牛車に水を積んで掛けて回ったって、とても追っつかなかった。

## 溜め池の〈かかり〉さん

溜め池というのは命の水だもんで、地区に責任者を決めてきちん

と管理されていた。今のようになら何か言って採用されるようなことはなかった。あくまでも、その責任者が差配した。

とにかく水の量というのが限られてるもんだから、その方は計算しながら公平に水を出すという責任を持って、大きな権限を持っておられた。

今より権力を持っておられた。〈かかり〉になるのは、まあ地主さん。選任されるわけではなくて、代々その家の人がやっていた。だから愛知用水がくるまでは、我々村民に対する〈かかり〉の力というのは、今の時代では考えられないほどのものがあつた。

大きな権力を持っていたが、一方では台風がくれば台風、早魃かんぼがくれば早魃への対策を講じなければならぬわけだから、それはもう大変な役目だった。そういう責任感のある苦労される姿を見ておりますもんで、村民の誰もが従つた。

一つの溜め池を何人かで共有するわけですが、何か文書になってるかという、特に見たことはない。土地の所有者イコール水の利用者でした。生活用水に使うことより、食料生産としての使用が最優先されていましたから。

今と違って、土地の所有者は全然変わりませんもので。その当時は、自分たちの田地を人様に売らなつてことをしたら、村八分だもの。借金しても、隣が売りに出たら買いますよ、という時代。

愛知用水がきたときに、溜め池を使っていたグループがどうなつたかという、正式な切り替えはなかった。

例えば組織の解散だとかは。う

ちの集落では「かかり」がそのまま愛知用水の管理をやるというところにはならなかった。そのときには気がつかなかったけれど、今思えば「いぶん」と「かかり」さんに失礼だったわ。自然消滅。「愛知用水がきましたから、今まででありがとうござりました」という改まったことはなかった。

こちらの勝手な言い分ですけれど、戦争が終わって、水がきて、これからは食料も増産できるし、農業の規模も拡大できるし、そういうことで舞上がって、それまで「ご苦労された「かかり」さんへの礼に失した。本当に申し訳ないことをしたと思います。それは、今、後悔していますね。

また「かかり」さんは、そのとき何も言われなかった。愛知用水がきたから、その責任者を、とも言われなかった。今考えると立派な方だったな、と思います。普通だったなら、何か言うでしょう。権利を主張して。

## 公平のための厳しい掟

当時もね、水泥棒。そういうことは頻繁にありました。

その溜め池は60戸の集落全戸で使っていました。湧き水もあつたから、生活用水にはそちらを使いますが、夏になれば湧き水も涸れ

てしまいますから。

夜回りしてもどうにもならんで、「かかり」さんが抑制力のために猟銃の取得免許を取った。まさか使ったというのではないですよ。あくまでも抑止力としてです。それぐらい水というものが大切だった。そして、誰でも欲すれば使えるというものでなかった。

溜め池はコンクリートの水路に1mおきぐらいで木の栓がしてあって。それは今でも一緒だよ。栓を抜けば水が抜ける。朝行くと、盗んだ分水位が下がっているからわかるんですよ。だから、みんなで解決策を考えただけど、妙案が浮かばなかった。それで最後の手段ということですよ。

猟銃なんて見たことないもんだから、今は厳しくなっているでしょうが、そのころは見せてもらいに行つて、使い方を習つたりした覚えがあります。まだ若造だった自分ですが、そこまでののかなあ、と厳しさを感じたものです。

そのころは先輩たちが声のトーンを上げていくから、なんだいなあ、と思つていくと、たいがい水のことだよ。

1961年(昭和36)に水がくると決まつて、みんなよく開墾して土地を準備してただけに、余計水が欲しかった。それで盗水。今でも、夜スプリンクラーが回

っていることがあるんだけど、節水がくると人間の心理として夜にこつそりとやる。まあ、こういうことはあんまり言いたくないが事実だもんで。そうなるとう区長さんは骨が折れます。

そういうことをする人は、まあ、水にひどく執着を持っておるもんでなかなかやめさせることはできない。普通の理屈では、通用しませんもん。仕方がないから「夜はポンプを止めましょう」と、そこまでいっちゃう。

これだけ水があつても、今でもこれだもんで、なかった時代はさぞかしです。

水争いという村どうしの争いと思われがちだけど、同じ集落の中で、こんな風に争っていたんですよ。だから「かかり」さんは1cmの水位にも神経を失らせていた。今思うと、うちの仕事なんて放つたらかして、やっておられたな。それぐらいでないかね、「ええわ、ええわ」と言っておつたら、2日か3日で池が空になります。

水の争いイコール食べものですから。今の世の中は、蛇口をひねれば水が出るようになったから、この気持ちはなかなかかわからんでしようね。

さすがに一人の人がここまで責任を持って、水を治めるといふこともないでしょうし。なんの相談

をするにも、その人を頼りにしてねえ。

愛知用水がきてからの水の管理責任者というのは、今風で、みんなが集まつて決めた。そうなるからは代々世襲ということはないに、3年とか5年ごとに替わるようにはなつていった。

しかし、そういう風になつてくると、本当に水の管理だけ。以前の「かかり」さんは、集落内のすべてのことの調整役でしたから、さぞかし「ご苦労なされたでしょう。

## 若気の至りで実力行使

今日はちよつと言ひ過ぎるけども、とにかくね、口で言つてもわからん場合に、わしが今までやってきたことは、すぐに元を止めちゃうんだ。そうすると喧嘩になるよ。だから、「そう言うんだつたら話を聞いてください」と言つてやってきた。

元を止めると、いろんなところからお叱りを受ける。愛知用水のほうにすればいいけど、町のほうにいつたりするから。そうすると町のほうからお叱りを受けたり。今考えると、ちよつとやり過ぎたかなあとも思うけど。解決するには、止めるのが一番早かった。

でもそれをやると支線配管に空気が入っちゃうもんで、そこにポ

ンとスイッチを入れると故障が起きるもんで、それには注意しましたな。だもんで、いったん止めた場合は、支線の一番高い所に5、6人配置して、そこでエアを抜いてからスイッチを入れた。だから事故はなかつたけどね。まあ、おそらく事故が起きていたら、うちらが止めると言つても止めななだと思つよ。

でもな、今みたいな世知辛い世の中になつてくると、役職だからといって、そこに向いて30分か1時間とか待つてくれることがなくなつてきている。だから、そんなことはもうできんでしょうな。そのころは誰一人文句言うことなしで、協力してくれた。まあ、若気の至りで。今思うと、危ないことをやっていたなあ、と。

その当時、サニ―ホースといつて穴を開けた灌漑用のホースが売り出されたの。スプリンクラーなら3時間で20mm程度だけど、サニ―ホースを使うと10分か15分で20mm出ちゃうんだもの。愛知用水がきたもんだから、誰でも水を掛けたいといつて、みんなそれを買つてしまった。だから、水なんかいくらあつても足りんわな。だから使つても15分だよ、と。データーを取つて、県の指導も受けて言つていた。

特に南知多の地質は頁岩で、い





くらの水をやっても乾いてしまうので、余計水をやる。

頁岩 けつがん  
堆積岩の一種。層状に薄く割れる性質から命名。

## 親、家族への感謝

まだ集落の中におりましたころ

は、夜になると怒鳴り込まれました。「お前、そこまで権利あるのか」と大声出して。そりゃ、そのとおりだ。権利も何もないもの。

でもね、人間というのは血相を変えて怒ってきてても、10分も話していると帰っていきます。理屈がご理解いただければ、怒ってこんなと思うんだわ。怒ってこられる人

というのは、そういう接触のない人だと思っただわ。だもんで一方的に考えて、「お前が悪いんだ」ということになってしまっただもんで。今考えると、よく頭を下げて済んだもんだ。でもね、いっぺんいいいから、みんなの前でポーンと言ってみたいもんだったよ。水戸黄門様みたいに。

でもね、いっぺんやったらおしまいだ、ということも、実はわか

つちやいるんです。余計なことだけれど、澤田家の家訓は「稲の穂を見れ」。若いうちはえぼつて反つくり返つてるかもしれないけれど、実つてくれば頭を下げる。お前も頭を下げる、と。そう言われて育ってきましたもんで。頭下げることには、苦はないんだ。

だけど、俺も人間だから、堪忍袋の緒が切れるときもある。あちこち回って水のことを話させてもらって歩いとるときにな、地区の人が20〜30人集まっている前で、机をひっくり返されたことがある。「しゃらくせえ」と言ってるなあ。自分から見たら20歳ぐらい先輩だったわ。そりゃあ、若造が偉そうに、と腹が立つ面もあったんだと思えますわ。そのときはさすがにビックリこいて「もう、辞めた」と思いましたわ。もう説明もせんから、アンタら好きだけ使いなさい、と。だけど、なんとか最後

までその場におりましたな。

水を無駄に使わないようにと、毎日毎日自分の仕事が終わったあとに、夜、説明に行くんだもの。

〈国営〉が終わったころ、30歳後半から40歳ぐらいでしたかねえ。当時のお歴々はみんな亡くなつていないということですから、私は出発点が早かった。若かったから、相手は癪しやくに障さわったんでしよう。

国営  
国営農地開発事業のこと。愛知県・南知多町と美浜町で1976年度（昭和51）から着手された。18年の歳月を経て、392haの農地造成と26haの区画整理が完成した。

今と違って、まだ融通がきかん若造なもんで、資料をもらつてこただけのものを言いなさい、と言われれば、それしか言わんもんで。それで感情に触れたところもあると思う。そんなことがあつてから、夜がくると行かなくちゃならんと思うと、嫌だなあ、と思つたもん。うちの親父は頑固できつい親父だったけど、その辺はわかつてくれてね。「お前は間違つておらんから、胸を張つておればいい」と。やっぱり親つてもんは、家族つてもんは、有り難いと思ひましたね。それがあつて、今があると思う。うちの仕事は、いったいどうやっておったのかいなあ、と思ひます。放つたらかして、そんな外の仕事ばっかりしてましたからね

え。〈国営〉では、500町歩近い農地の権利調整と水配分の両方をやりましたから。418haかな、全部で。

昔からある土地は、水使用の作法というもんがあるんだが、新たに開拓したところはゼロから始めなきゃならんもんで余計大変でした。

## 食料生産の大切さ

沙漠なんかでも土地はいくらでもあるんだから、水さえあれば食料の増産はできると思う。人間、いざとなつたらやりますからね。だから、いっぺんそういう所に見学に行きたいと思ひますよ。井戸だけで、どんなにして農業をやっているんだかね、見てみたい。

視察でヨーロッパに行かせてもらったときに、スイスなんて4000m級の山岳地帯で食料自給率が80%以上あるという。言っちゃあ悪いけど、こんな所で食料なんてつくれるはずがない、と思ひましたよ。でも、政府の要人の話を聞いたら、何を言っても食料は自国で、と。4カ国回つただけで、すべての国でそうおっしゃられた。日本に帰つてくると、「外国で買ったほうが安くできる」と平気で言うでしょ。えらい意識の違いだなあ、と。





フィールドワークに同行してくださった、愛知用水土地改良区事務局長の早川吉夫さん（左）と同・管理課課長の岡田昌治さん。

い日本で食料をつくらならんかって。あのときが一番、腹が立ったな。国会議員といたら国民の代表だよ。国民の代表がそんな考えを持っておるんだから、自給率なんて上がるはずがないよ。名前を調べることもできたけど、気持ちに余裕がなかったな。まあ、腹が立ったとしか、言いようがなかったね。

### 国営農地開発事業

なんととっても食料。それ以外のものではなくてもなんとか我慢できる。日本を潰すのに、原子爆弾もなんもいらん。食料をストツプすればギブアップだよ、と言われてる。そんなことを言われていたらいかんあ。

これも、ついでだから言ってしまうけれど、1977年（昭和52）、1978年（昭和53）あたりは、〈国営〉の陳情にね、よく東京に行っていたんだわ。それで議員会館に待ち合いがあるでしょう。うちら20人ぐらいで行くんだわ。年に2、3回行きよったな。そうすると、どこかの選挙区の先生がおる。忘れもせんけど、その中の一人から「今日はなんの陳情ですか？」と聞かれたから「愛知県の知多半島の国営農地の事業に予算をいただきにきました」と言ったところ、その先生の第一声はだね、「ちよっと、あんたらおかしくないか」と。なんで、この国土の狭

てね、「我々の意志をなんで受け入れてくれんの」と文句言ったの。そんなんだつたら南知多では、もう食べるもんもつくれんよ、と。ほかの先輩方もビックリするほどの大きな声を出しちゃったの。そうしたら、次に行ったときにはちゃんと上に乗っかってな。それで、段取りしてくれたのを覚えてる。だから、言うべきときは言わんとならん。

それからトントン拍子で計画されて、市、県、国に上げていった。とにかく土地だけはつくってくたさい、と。それでできたのが、何年だったかなあ。まだ愛知用水の計画もなかったときからの運動ですが、ずいぶんと時間がかかった。むしろカッコいいこと言って、

「土地と水は確保するから、来てください」と言って、入植者を誘致した。人気があって土地がだんだん足らんようになったから、もう誘えんけど。まだ土地が余っている地域もあるようだけど、うちの範囲の土地はあらかた借り手がついてしまったから。16団地に分かれとるんだわ。わしらのところは初神の第一と第三団地です。不作地が08%。よそでは不作地がようけあって、地元の償還金がたくさん残っているそうですよ。

今流行の田舎暮らしとかいうんじゃ通用せんもんで、あくまでも

一生懸命でね。

わしらのころは家族3人でやっとなつて、80〜90aだわ。1haなかつた。それでも、今より楽に生活できました。今はね、専業農家で食べていこうと思つたら、1人2ha必要。それは季節的にパートさんを手伝いに入れないと、やりきれん広さ。多い人は3人で6haやっている。この辺は路地野菜が7割かな。

当時800haぐらいの土地の同意を取るのに2年ぐらいかかった。国の指導の基幹作物が、みかんから始まって、ビワになって、それがすべて土地に合わんよ、ということになって、今の形態になった。ハウスの観葉植物と路地野菜。それに20年かかったし、実現までにずいぶん時間がかかったな。決定はされても、予算をつけてもらえないとできなかったから。だから、本当に1年に2、3回陳情に行つたよ。

久野庄太郎さんの話はあちこちで聞かれたと思いますが、本当に生き神さんだもんね。あの人がいなかったら、この用水が実現してないんだから。前・理事長の伴武量<sup>たけりか</sup>さんも、わしらと違って見識の広い人だから、そういう先輩方の恩を忘れちゃいけないよ、と。

そいだけど、じゃあ、どうしたらいいんだ、というと、よくわからない。なかなか難しいんだ。昔のように号令をかけたなら集まってきて協力するようにはなっていない。そういう膝詰め談判ができませんで、まとまらん。集まって徹底的に話し合つたらいい。時には喧嘩みたいになるけれど。

わしも若造、若造と、何べん言われたかわからん。しんどいからできれば誰もそんなことはしたくないと思うよ。今、思い出にあるのは頭を下げたことと、どれだけの人がお叱りを受けたか、ということ。わしだつて言つたらいかんが、息子にはやらせたくないもの。でもね、良いことは忘れるもんだ。そうやって話し合わなきゃ、基礎がでないじゃない。そうやっておれば、仮に何か問題が起つても乗り越えられる。

わしも意見を言う場を設けたけど、何にも出ないからやめてしまった。そいでもって、影でのごちよごちよ言うんだ。切羽詰まっていたら、そんなもんじゃ済まないんだから、そいだけ恵まれとるんだわ。地域が団結してものを申すのでないと、地域の発展はないんだから、ちゃんと向き合わないとならんね。

